

歴史散歩

文——多古町郷土史の会

◆第24話◆

日枝大神

方田三七二番地に祀^{まつ}られている旧方田村の鎮守です。

御影石で造られた重厚な鳥居をくぐり、境内へ続く石段を上り切ると、歴史を感じられる本殿が閑静なたたずまいを見せています。

延命山法光寺

方田一一七番地にある日蓮宗の寺で、集落のほぼ中心部に位置しています。

寺の「過去帳」には、寛正四年（四六三）以降の歴代住職の名のほか、文化九年（二八二）に発生した火災の後、本堂や庫裏の再建に尽力した檀家一同の様子が克明に記されているとのことです。

境内入口の左手には、法華経を守護する三十の神々（三十番神）が祀^{まつ}られた小堂があります。

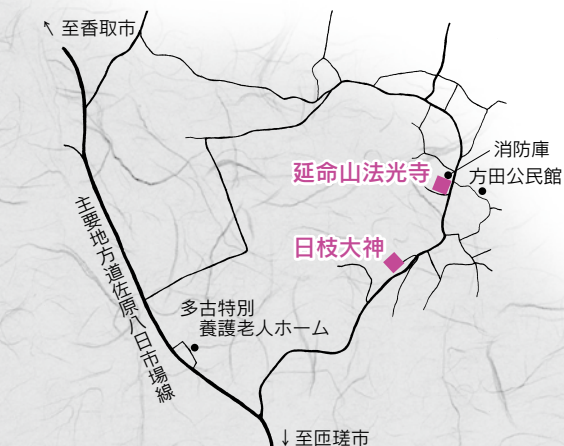
また山門前には、宝篋印塔と題目塔が建ち、山門をくぐった右手には、歴史の深さを物語る薬師如来の碑や歴代住職の墓石などが数多く建ち並んでいます。



見事な彫刻が目を引く本殿



閑静なたたずまいを見せる日枝大神



延命山法光寺本堂



境内入口の左手に建つ三十番神が祀られた小堂



山門前の宝篋印塔と題目塔

『朝食前にも血圧を測りましょう』

文／国保多古中央病院 内科 宇都宮隆法

日本中でインフルエンザが猛威を振るっていますが、命にかかわるということにかけては「高血圧」の怖さも負けてはいません。血圧が高いとどうして問題になるのでしょうか。

血管には心臓から送り出された血液が流れています。血管は軟らかいゴムホースに例えることができますが、血圧があまりにも高くなるとホースが破れてしまうということが考えられます。しかし、血管は破れてしまうわけにはいきま

せんで、血圧の圧力でできた、ほんの小さな血管の亀裂や傷を治すために、血液の中に流れている接着剤と同じような成分で血管を常に補修し続けています。

ところが、補修されたところは血管の壁が内側に飛び出て厚くなつて、中の通り道が細くなり、その血管も硬くなる傾向があります。

そうすると、細く硬くなつてしまった部分に血液を通すため、今までよりも高い圧力をかける必要が生じます。さて、細く硬いホースになつてしまった血管に、高い圧力で血液を流そうとするとどうなるでしょう。破れてしまつたり、ますます増える小さな亀裂や傷を治し続ける



【病院便り】

ために、ついには血管が詰まつてしまつたりします。血管は体中に血液を巡らせていますが、心臓や脳は血管の具合が悪くなるとすぐに影響を受けてしまいます。血圧をしつかり測ることは、健康を守る第一歩です。自宅で血圧を測つて、健康管理に生かしましょう。特に、朝起きて30分後の血圧は高くなる事が多く、血圧の治療に大きくかかわってきます。

体調が悪いと感じたら、夜遅くではなく、お日様が高いうちに受診していただければ、より良い体制で診療を受けられます。

朝起きて30分後の血圧は高くなる事が多いの。だから家で血圧をしつかり測ることが大切なのね。



本の森

「わたしの一冊」『こまったさんのコロッケ』

親子で楽しめる一冊を紹介します。料理のコツや裏技などが所々に出てくるので、大人も一緒に楽しみながら読むことができます。

主人公の『こまったさん』は「困った」が口癖なので、ご主人にこのあだ名を付けられました。こまったさんはカメラのフラッシュで不思議な世界へ。そこではなぜかサッカーをするごとに、飛んでくる物はボールではなく、ジャガイモや玉ネギ、最後には空からパン粉も…。こまったさんは、不思議な世界と現実の世界でコロッケを作り上げます。



本植人：長谷川佐知子さん 莉咲さん（飯新）

この本はシリーズ化されていて、読み終わった後、本に出てくる料理を娘の莉咲と一緒に作ることもあります。

本を通して親子の会話も弾むようになりまし。これから大きくなつてもずっと本が好きでいてもらいたいものです。

14年目



『こまったさんのコロッケ』
作：寺村輝夫
発行：あかね書房

〈あらすじ〉
ひよんなことから不思議な世界へ飛び込んだ花屋のこまったさん。サッカーボールの代わりに飛んでくるジャガイモや卵を物ともせず、コロッケを作ることに…。料理とお話が一緒になった楽しい一冊。

今回紹介した本は、町公民館内の図書室に置いてあります。リクエストにもお応えしますので、お気軽にご利用ください。
■多古町公民館図書室 ☎79-3406
開館時間：午前8時30分～午後5時
【11月の休館日】
3日(火)・23日(月)